特 72
105

岐阜縣實業教育研究會編

高等小學校農業科教授細目

發行元

郁文堂支店

301647-001-9

特72-105

高等小学校農業科教授細目

岐阜県実業教育研究会／編

M35.5

CCA-0001

キ72
72
105

岐阜縣實業教育研究會編

高等小學校農業科教授細目

發行元

郁文堂支店

特クラ
105

●高等小學校農業科教授細目

本細目の說明

本細目は修業年限四ヶ年の高等小學校に於て毎週一時間宛四ヶ年間(毎年四十週)農業科を課する者として編成せり

本細目は本縣附屬小學校教授細目に據り特に理科國語及地理科と連絡し兼ねて本縣農事の季節に從ひて各學年に配當せり

作物の栽培法は地方毎に異なりて同しからず故に細目中栽培の方法は及はず教授者は宜しく其地方に恰適せる方法を擇て之を教ふべし

四　農事は地方の狀況により一方に重要なるも他方には必要ならざる事項あり本細目は普通の事項を網羅しある者なれば教授者は各地農事の實際に應じて參酌取捨其宜きを得んことを要す

農業科教科上の注意

一　小學校農業科の目的

イ　農業に關する普通の智識を得せしむること

ロ　農業に付て趣味を感せしむること

ハ　勤勉忍耐の風を養ふこと

ニ　經濟的觀念を得せしむること

二　小學校農業科に於て教授すべき項目

イ　土壤
ロ　水利
ハ　肥料
ニ　農具
ホ　耕耘
ヘ　栽培
ト　發芽
チ　發育
リ　氣候
ヌ　經濟

三　實驗の種類

イ　觀察
ロ　植木鉢實驗
ハ　普通作物の栽培
ニ　特用作物の栽培
ホ　蔬菜果樹の栽培
ヘ　害蟲驅除
ト　森林苗圃

チ 養蚕及養鶏
但地方の狀況によりて實驗の種類を取捨すべし

四 標本

イ 作物の種子及収穫物
ロ 害蟲、益蟲、益鳥
ハ 土壤の種類
ニ 人造肥料の種類
ホ 繭の種類
ヘ 農業製造物の種類
ト 其他教授上必要なる圖畫、模型の類
但右は農業科專用の者を掲けたるのみなり故に此他に理科等の標本を共用す可し

○高等小學校農業科教授細目

第一學年

四 月

一 爪哇薯
イ 用途
ロ 薯の部分
ハ 薯の植ゑ方
二 大豆
イ 用途
ロ 種子の蒔方
ハ 作物と野生植物との別(作物の解)
ニ 作物は特別なる手入を要すること

五 月

一 大豆の種子
イ 種子の選び方(良種子の標徴)
ロ よき種子はよき作物を生すること
ハ 種子を蒔く期節は主に溫度に關係すること
(種子の發芽には溫度水分空氣を要すること)
ニ 種子を土中に埋むるは水分を得る爲なること
(播種深淺のこと)

六 月

一 瓢蟲及僞瓢蟲
イ 瓢蟲は常に蚜蟲を食ふこと
ロ 僞瓢蟲は爪哇薯の葉を食ふこと
ハ 蚜蟲は作物を害するものなること
ニ 作物を害する蟲は害蟲にして害蟲を食ふ蟲は益蟲なること(其地方ニ主ナル害蟲及益蟲ノ種類)
ホ 害蟲は驅除し益蟲は保護すべきこと

ト 害蟲を驅除するには共同一致すべきこと

七 月

一 森林
イ 林内は夏は涼しく冬は暖なること
ロ 林に降りたる雨は多く地の中に浸み込むこと
ハ 樹木の茂れる山は山崩なきこと
ニ 山に樹木茂れば旱魃洪水の憂なきこと
二 材木
イ 材木の用途(建築用、土木用、器具用、工藝用、薪炭用)
ロ 材木は總て森林より出つること
ハ 故に森林を保護すべきこと(材木なければ一日も生活し得ざること)

九 月

一 菜類
イ 菜の種類
ロ 菜の用途
ハ 菜圃の整地法
ニ 整地の必用なること
ホ 蒔き方
ヘ 播種法に点播、條播、撒播あること
ト 間引の必用
チ 間引物は利用すべきこと
リ 肥料の施し方

十 月

一 麥
イ 種類
ロ 用途
ハ 選種法
ニ 整地法
ホ 播種法
ヘ 施肥
ト 肥料に元肥と追肥とあること
チ 麥の元肥には廐肥の必要なること

十一月

一 馬
イ 用途
ロ 品種
二 牛
イ 用途
ロ 品種

ハ 牛乳
ニ 牛馬の飼料

三 豚
イ 用途
ロ 品種
ハ 豚は何にても喰ふこと
ニ 牛馬及豚等を家畜と稱すること

十二月

一 鷄
イ 用途
ロ 品種
ハ 飼養法
ニ 殖蕃法
ホ 鷄及鴨等を家禽と稱すること

二 養魚
イ 池に養ふべき魚類
ロ 飼養法
ハ 養魚の利益あること

一月

一 農家子弟の心得(例話二宮先生)
イ 農家子弟は父兄の業を益盛にすることを心掛くべきこと
ロ 智識を研きて農事の改良を謀るべきこと
二 勤儉貯蓄(例話二宮先生)
イ 收穫は年によりて豊凶あること
ロ 貯蓄の必要なること
ハ 貯蓄は勤儉によりて生すること
二 餘業
イ 餘業の種類
ロ 餘業の利益
ハ 閑時の利用すべきこと

二月

一 燕及啄木鳥
イ 燕及啄木鳥は蟲を食すること
ロ 蟲を食する鳥を益鳥と稱すること
ハ 益鳥の種類
ニ 益鳥は保護すべきこと
二 麥の中耕及除草
イ 中耕の必要なること
ロ 雜草の害
ハ 止め作及止め肥のこと

三月

一 胡瓜
イ 用途及品種
ロ 苗の仕立方
ハ 作物により苗床を要すること
ニ 苗床の作り方
ホ 苗の移植法
ヘ 苗の移植には適當の時期あること

第二學年

四月

一 稻
イ 米及籾の用途
ロ 種類
ハ 選種
ニ 浸種
二 苗代
イ 苗代の作り方(附苗代田の撰定に注意すべきこと)
ロ 播種(附播種後の取扱方)
三 水田
イ 整地
ロ 元肥
ハ 一毛田と二毛田との處理法

五月

一 蠶
イ 効用
ロ 品種
二 養蠶
イ 掃立の手續(羽箒)
ロ 給桑の方法(庖刀及俎)
ハ 除沙及分箔(蠶座及蠶絲)
ニ 蠶室の空氣溫度及濕氣(寒暖計乾濕計)
ホ 蠶病
ヘ 上簇(簇の作り方)
ト 結繭中の注意

六月

一 麥の收穫
イ 刈取の適期
ロ 後熟の必要

ハ 調製法
ニ 貯藏法
二 田植
イ 移植の時期
ロ 植方の疎密
ハ 一株の莖數
ニ 挿植の深淺
三 茄子
イ 用途及品種
ロ 苗の仕立方及移植
ハ 施肥の方法
ニ 病蟲害 附跡地を嫌ふこと

七 月

一 田草取及目的
イ 田草取の目的
ロ 田草取の時期
ハ 追肥の方法
二 桑
イ 品種
ロ 播殖法

ハ 桑園の仕立方
ニ 施肥法
ホ 病蟲害

九 月

一 菜蔬及薯
イ 用途
ロ 品種
ハ 栽培法
ニ 切干製造
二 蕎麥
イ 用途
ロ 蕎麥は土地の利用に適する作物なること
ハ 栽培法
三 稻の病害
イ ひもち病
ロ 稻粃
ハ 病害豫防法

十 月

一 稻の收穫
イ 刈取の適期
ロ 乾燥法
ハ 調製法
ニ 俵拵のこと
ホ 穀類一般の貯藏上の注意
二 豌豆及蠶豆
イ 用途
ロ 品種
ハ 栽培法
ニ 豌豆の跡地を嫌ふこと

十一 月

一 輪作及連作
イ 輪作及連作の解
ロ 連作の不利益
ハ 連作は品質を良くすることのあること
ニ 輪作の順序
二 種子交換
イ 種子交換の必要
ロ 種子交換に就ての注意
ハ 試作の必要なること
ニ 試作に就ての注意

十二 月

一 地主と小作人
イ 農家に自作農と小作農とあること
ロ 自作農の利益なること
ハ 農家は自作農たらんことを勉むへきこと
ニ 地主の心得
ホ 小作人の心得
二 收支計算
イ 收支計算の必要なること
ロ 計算法

一 月

一 蠶種貯藏
イ 蠶種に平附と框製とあること
ロ 貯藏法
ハ 氷に浸すこと
二 蠶病
イ 蠶病を生する原因
ロ 豫防及消毒法
三 土壤
イ 土壤は岩石の風化して成れるものなること

ロ 動植物の腐敗したるものも亦土壤となること

二 月

一 粘土及砂土
イ 土壤に粘土及砂土あること
ロ 粘土と砂土との混合物を壤土と稱すること
ハ 壤土は作物の生育に適すること
ニ 表土及心土

二 雨及雪
イ 空氣中の濕氣（乾濕計）
ロ 雨雪生成の原因
ハ 雨雪の効害（雨量計）

三 月

一 露霜
イ 露霜生成の原因
ロ 晩霜の害
ハ 霜害豫防法

二 林檎苗圃
イ 苗圃の整地
ロ 播種法
ハ 發芽後の手入

第三學年

四 月

一 農學の必要（例話佐藤信淵）
イ 農法により得失あること
ロ 學理應用の利益
ハ 學理を攻究すべきこと

二 甘藷
イ 用途
ロ 苗の仕立方
ハ 苗の挿方
ニ 施肥及蔓返

五 月

一 南瓜
イ 用途及品種
ロ 苗の仕立方
ハ 施肥及摘芽
ニ 瓜類一般の栽培法は南瓜に倣ふたること

二 麥奴
イ 麥奴の發生及經過
ロ 麥奴の豫防及驅除法

三 藍及烟草
イ 用途
ロ 栽培法
ハ 製造法の概要

六 月

一 綿及麻
イ 用途
ロ 栽培法
ハ 製造方の概要

二 蝦蟇
イ 種類
ロ 發生及經過
ハ 驅除法

三 浮塵子
イ 種類
ロ 發生及經過
ハ 驅除法
ニ 其他稻の害蟲

七 月

一 度量衡
イ 度量衡の種類
ロ 土地面積の丈量法

二 農具
イ 農具の種類（其地方に用ゆるもの）
ロ 農具の取扱方

九 月

一 氣溫
イ 氣溫の本源は太陽にあること
ロ 氣溫の變化
ハ 溫熱の多少と動植物との關係

二 氣壓
イ 大氣の壓力
ロ 氣壓の變化
ハ 天氣豫報

三 紫雲英
イ 苗肥に適する植物
ロ 豆科植物は土地を肥すこと
ハ 栽培法

十 月

一 油菜

イ 種油及油粕
ロ 油菜は二毛作に適すること
ハ 栽培法
一 甘藷の収穫
イ 収穫の適期
ロ 種藷の貯藏法（附、根菜類の貯藏法）
ハ 切干及澱粉の製造法
三 水田の排水
イ 排水の利益
ロ 排水の方法

十一月

一 耕鋤利益
イ 耕鋤の利益
ロ 深耕の利益
ハ 耕鋤の時及度數
ニ 牛馬耕
二 客土の解
イ 客土の利益
ロ 客土の方法

十二月

一 植物と温度
イ 植物の生長には一定の温度を要すること
ロ 恰適温度及最高最低温度
ハ 生長及成熟は主として温度に關すること
二 温床
イ 植物は適當の温度を與ふれば季節以外にも栽培し得ること
ロ 温床の作り方
ハ 促成栽培の利益及これに適する作物
ニ 温床の取扱方

一月

一 肥土と瘠土
イ 肥沃なる土壌の要件
ロ 瘠土の解
二 施肥の必要
イ 作物の收穫は土中の養分を奪ひ去ること
ロ 施肥は養分の不足を補ふこと
三 肥料の三要素
イ 窒素燐酸ポタシを三要素とすること
ロ 作物は種々の養分を程よく要すること

二月

一 人糞尿と厩肥及堆肥
イ 人糞尿及厩肥堆肥の効能
ロ 厩肥及堆肥はクサリテ初て植物の養料となること
ハ 肥料には直にキクものとキヽ方の遲きものとあること
二 灰類燐酸肥料及智利硝石（又は硫酸アムモニヤ）
イ 灰類はポタシに燐酸肥料は燐酸に智利硝石（又は硫酸アムモニヤ）は窒素に富むこと
ロ 肥料には三要素を總て含むものと或る一成分のみを含むものとあること
ハ 肥料の配合に注意すべきこと
ニ 其他主なる肥料（油粕及大豆粕、菜肥骨粉糠等）

三月

一 石灰
イ 直接肥料と間接肥料
ロ 石灰の効害
ハ 石灰使用上の注意
二 樹林苗床替
イ 樹木移植法
ロ 床替苗圃の作り方
ハ 床替後の管理法

第四學年

四月より五月上旬

一 苹果
二 梨
三 葡萄
四 柑橘
五 柿
六 梅及桃
七 無花果

（前記各種の内より地方の情況に恰適せるものを選ひて題目となし次の事項を授くへし）

イ 蕃殖法の種類（作物により其蕃殖法に種々あること）
ロ 實蒔法
ハ 接木法
ニ 剪枝
ホ 摘芽摘蕾及摘果

ヘ 施肥
ト 果樹栽培の利益

五月中旬以下

一 茶
イ 用途
ロ 栽培法
ハ 製茶法の概要
二 作物の分類
イ 穀菽類
ロ 蔬菜類
ハ 芻草類
ニ 果樹類
ホ 工藝作物

六 月

一 梅雨
イ 梅雨の節は降雨多きこと
ロ 日光不足の害
ハ 空氣過濕の害
ニ 土壤過濕の害
二 水田の灌漑
イ 深水の害
ロ 灌漑水は温暖なるを要す
ハ 灌漑水は流出せしめざるを可とす
ニ 灌漑停止の時期

七 月

一 物 價
イ 需用供給の解
ロ 物價高低の生する原因
ハ 農家は物價の高低に注意して賣買をなすべきこと
二 農業と商工業の關係
イ 農業は商工業に原料を給すること
ロ 農業者は商工業者と共に國富の增進を力むべし

九 月

一 二百十日
イ 二百十日頃は暴風の起り易き季節なること
ロ 風の原因
ハ 和風の効
ニ 暴風の害
ホ 年中の主なる節氣（土用、八十八夜等）

ヘ 農業は季節に據らざるべからざること
ト 太陽曆の便なること
二 果實の收穫
イ 收穫の適期
ロ 採收法
ハ 貯藏法及製造法

十 月

一 造 林
イ 林木の種類
ロ 造林法の種類
ハ 農家の副業として造林の利益
二 樹苗植付
イ 植付法
ロ 植付後の手入
ハ 間伐
三 森林保護
イ 濫伐の害
ロ 山火事の防禦
ハ 害蟲の驅除
ニ 落葉採收の害

十一 月

一 家畜の飼養
イ 飼料の良否
ロ 牧草
ハ 飼料の配合
ニ 飼料給與法
二 家畜の管理
イ 畜舍の設備
ロ 衛生上の注意
ハ 虐待すべからざること
三 家畜の改良
イ 品種の善惡
ロ 品種改良の必要
ハ 遺傳のこと

十二 月

一 農 業
イ 農業の解
ロ 農業の起原
ハ 農業の發達
ニ 農業の貴重なること

ホ 本縣下の重要農產物
ヘ 農業教育農事試驗農工銀行及農會は農業の發達を助長すること
ト 吾々農民は本縣下の產業に留意し此等の機關を利用して益農業を發達せしむへきこと

一月

一 年中行事
イ 一年の計は元旦にあること
ロ 年中行事の必要（教授者は其地方の年中行事を作りて教ふへきこと）

二 土地
イ 土地は農業の一要素なること
ロ 農業地の種類
ハ 農地の利用

三 勞力
イ 勞力は農事の一要素なること
ロ 勞力に人力 畜力 器械力あること
ハ 雇人使傭に就ての注意

二月

一 資本
イ 資本は農業の一要素なること
ロ 固定資本と流動資本
ハ 農家資本の種類

二 資本の蓄積
イ 資本の增殖は貯蓄にあること
ロ 個人の富は國家の富なること
ハ 奢侈の惡むへきこと
ニ 資本の蓄積に力むへきこと

三 分業
イ 分業の解 附協力
ロ 分業の利害
ハ 農業上に於ける分業

三月

一 農家の共同
イ 大業及小業の利不利
ロ 共同の利益
ハ 產業組合

二 農家の本分
イ 各人其業に勉むるは君に忠なる所以なること
ロ 納稅と兵役とは國民の二大義務なること

ハ 租稅の大部は農家之れを負擔すること
ニ 農民は强兵に適すること
ホ 殖產を盛にして富國の基を固むるは畏くも我が天皇陛下の軫念し給ふ所なり此聖旨を奉戴して夙夜に奮勵するは農家の本分なること

農業科教授參考書

書目	著者	發行所
一農學梯梯	稻垣乙丙著	博文館
一初等作物通論	同人著	同上
一日本農業書二冊	森要太郎著	富山房

兒童用教科書

本細目に適したる良書無し

372
386

明治三十五年五月二十五日印刷
明治三十五年五月三十日發行

編者　岐阜縣實業教育研究會

代表者　右理事　安間亥三郎

發行兼印刷者　岐阜縣稻葉郡加納町二丁目井五番戸ノ二　仲野保五郎

發賣元　岐阜市泉町　郁文堂書店　仝　郁文堂支店

實價參錢

不許復製